

放課後子ども総合プラン運営委員会 会議概要

1	審議会名	令和5年度第2回放課後子ども総合プラン運営委員会
2	日 時	令和6年3月11日 午後7時から8時25分まで
3	会 場	安曇野市役所 4階大会議室
4	出席者	唐澤会長、山田委員、奥原委員、宮下委員、佐藤委員（荒木さんが代理出席）、坂楨委員、吉田委員、小林委員、山口委員、小原委員、中嶋委員、秦泉寺委員、小林委員、片桐委員、島村委員、
5	市側出席者	山越課長、古畑課長補佐、本島主査、穂苺
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和6年3月15日

協 議 事 項 等

◇会議の概要

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項
 - (1) 令和5年度児童クラブについて
 - (2) 令和5年度放課後子ども教室（わいわいランド）について
 - (3) 現職委員の任期について
 - (4) その他
- 4 その他
- 5 閉 会

◇協議事項概要

- (1) 令和5年度児童クラブについて

<委員>

6年生までの受入拡大に向け分室準備に追われた1年だった。人材確保が課題。

<委員>

南穂高児童館の目安は80名定員だが、令和5年度通年登録は100名超える。自由来館の乳幼児の受入をしながら児童クラブ室を増やして対応した。

令和6年度分室が開設されるが、高学年の授業と重ならないよう、利用は高学年にしようと考えている。

<委員>

穂高北小は新しい児童館となった令和4年度から6年生まで受入拡大したが、利用者が少ないこともあり、5,6年生は落ち着いて生活している。今の小学生は思春期早く、女子は5年生から思春期を迎える子もいる。子どもの世界を崩さないよう見守りをしている。子どもの主体性を担保する運営が全国で広がっているので、児童クラブイベントの企画や司会を高学年に任せている。市内では学年を混ぜて活動をしている児童クラブもあるが、指示のしやすさ、下校時刻の観点から学年を分けている。（小学校内分室1,2年生、児童館3年生以上）

<委員>

明北小児童クラブが始まり、少ないながら学校内でできる遊びを子どもたちなりに考えて過ごしている。明科児童クラブとして一緒に生活してきた明南小と明北小の児童クラブが分かれることで子どもたちは不安を感じていたが、子どもたちなりに解釈し、受け入れてくれた。来年度から5,6年生を初めて受け入れるので接し方に戸惑う職員もいるので、対応を考えながら受入体制を整えていく。

<会長>受入拡大したいが子どもの安全を担保するためにできないことはできないと言い、保護者にも理解してもらった方が良いと思う。子どもへの対応、困った時には学校へ相談してほ

しい。空き教室もできる限り協力はしたいと考えているが、具体的な提案をしてもらえるとありがたい。

<事務局>受入可否について、日々受入側と連絡を取り合って調整している。安全第一なので今後も相談してやっていきたい。

(2) 令和5年度放課後子ども教室(わいわいランド)について

<委員>穂高北小では下校時刻が学年により違うので、3,4年生が来たらはじめての会をする。冬は外で遊ばないので体育館や講堂が密になる。スタッフ配置を決めることにより運営が順調になった。

<委員>

堀金小、昔は登録児童150~180人いたこともあった。欠席者もいるので余裕を持ったスタッフ数が必要。子どももスタッフもそれぞれなので、スタッフへの教育も大事である。遊ぶ時間は思いっきり遊ぶことも子どもたちには大事な経験。

<会長>

スタッフが足りないところ、学生ボランティアで補えれば互いによい経験になる。そういった人材確保は可能か。

<事務局>

市では現在松本短期大学の幼児保育学科に協定の要望を挙げている。小学校によっては松本大学と直接やり取りをしているようだ。可能性を検討していきたい。

(3) 現職委員の任期について

<事務局>前回の会議の中で、10月から翌々年9月である委員の任期について、異動や学年の区切りである4月からとなるよう、現職委員の任期を短縮する予定という旨の話をしたが、部内で検討したところ、安曇野市放課後子ども総合プラン運営委員会設置要綱に基づき委嘱書を交付し、任期2年としてあるため現職員の任期を短縮することはできないということになった。今後、要綱の見直しも検討し、次回の会議は令和6年10月以降に新しい委員と開催することとする。

(4) その他

<事務局>放課後児童対策パッケージについて概要説明

<委員>特別な配慮を必要とする児童の受入について、児童クラブの申請者を見ていると、中には、本当に児童クラブで過ごすことがその児童のためになるのかと考えざるを得ない事例もある。放課後等デイサービスで個別に丁寧な対応してもらった方がもっと生き生きとお子さんが過ごせるのではと日々現場の職員も悩みながら対応している。職員の数を増やして丁寧な対応ができれば良いのだが、なかなか職員数を増やすのが難しい状況である。放課後等デイサービスについても、経営が厳しく閉鎖する事業所もあると聞いている。安曇野市の障害福祉計画でも基盤整備について記されているが、児童福祉法に基づく障がい児の通所施設についての実態がわかる障がい者支援課長などの意見をもらいつつ児童クラブと実態を共有し合い連携できればより良い体制になるのではと考えている。

<委員>パッケージ内、多様な居場所づくりについて、放課後子ども教室と児童クラブの校内交流型の推進について、安曇野市では児童クラブが次々に学校内に新設されていて、放課後子ども教室と施設の共用もある。人手不足の解決にもつながるかもしれないので、両事業の連携について話し合う場を設けてほしい

<事務局>近年障がいを持つ児童が増えており、国からも支援が必要な児童の受入として虐待やいじめを受けた児童、また日本語が母語でない児童についても言及されている。市でも各方面と連携を強化していきたい。

<事務局>わいわいランドと児童クラブの連携について、いきなりすべてのクラブで実施する

ことは難しいので、児童クラブ登録者のわいわいランド登録率が高く、規模も手ごろで学校内で児童クラブが開設された明北小等をモデル校として連携について社会福祉協議会とわいわいランドと検討の場を設けていきたい。

ホームページ掲載時には、委員の名は掲載しません。